全国田んぼアートサミット in 南九州市

「全国田んぼアートサミットin南九州市」が8月4日にコミュニティーセンター川辺文化会館で開催されました。サミットでは,田んぼアートで年間30万人もの誘客を誇る「青森県田舎館村」の企画観光課の浅利高年さんによる基調講演や,熊本県北稜高校の生徒による事例発表がありました。

田んぼアートは,赤,紫,濃緑の様々な色の稲を用いて,田んぼに大きな絵を描きます。青森県産の品種を用いていることもあり,気候が異なる鹿児島県では,なかなか育たなかったり,思ったように発色しなかったりすることもあるそうです。全国田んぼアートサミットin南九州市実行委員会会長の大薗秀己さんは「一人では,田んぼアートの完成も,サミットの開催もできませんでした。たくさんの人の力があって成功させることができました。」と感謝の思いを語りました。

また,田んぼアートを南薩地域の代表的なイベントにしたいという大薗さんの願いは,2016年の田部田の田んぼに大きく描かれたカルタの中の「我が胸のもゆる思ひにくらぶれば煙はうすし桜島山」という言葉の中に詰め込まれていました。

全国田んぼアートサミットin南九州市

田んぼアートと大薗秀己さん

第1回「枕崎国際芸術賞展」が開催

7月18日から9月4日まで,枕崎市文化資料センター南溟館で第1回「枕崎国際芸術賞展」が開催されました。枕崎市では,過去10回「風の芸術展～トリエンナーレ枕崎」を行ってきましたが,今回から内容を一新し,国内外を問わず作品を募り,新たに京都造形芸術大学教授の千住博さん,東京藝術大学教授・副学長の保科豊巳さん,台北芸術大学教授・關渡美術館館長の曲徳益さんの3名が審査に当たりました。

展示作品は,平面作品と立体作品127点。実際に手を触れる事のできる作品や鑑賞する角度によって見え方が異なる作品など鑑賞方法まで多岐にわたり,選考の際,「多くの優れた作品の中から,選考しなければならないのが苦痛だ。」と千住さんに言わしめたほど,高いレベルのものばかりとなりました。南溟館館長の末永俊英さんは「国内外を問わずに公募したことで思わぬ壁にぶつかることもありましたが,作品の幅がかなり広がり,来館者の満足度は高いものであったと確信しています。
また,この芸術賞展が枕崎市の観光や経済の起爆剤となってほしいです。」と語ってくれました。

受賞作品と南溟館の皆さん

審査員の千住博さん